

普及活動情勢報告（平成27年9月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

ニラの品質向上にむけて



ニラの生育状況を確認する参加者

9月2日、J A土佐香美ニラ部会香我美支部において、夏期の気象状況から肥培管理を中心とした今後の栽培管理等について現地研修会が開催され、生産者5名が参加しました。

農業改良普及課からは、ネギアザミウマの発生活動の状況について情報提供を行いました。生産者からは、今年の生育状況や肥培管理で気になることについて質問や意見が出され理解を深めました。

農業改良普及課は、今後もニラの安定生産に向け支援していきます。

J A土佐香美フルーツトマト部会が栽培講習会を開催



フルーツトマト部会栽培講習会から

8月28日、J A土佐香美フルーツトマト部会では夜須園芸センターで栽培講習会・講演会を開催され、生産者16名が参加しました。農業改良普及課は主要の病虫害防除、食味試験結果、環境制御技術の基礎について情報を提供しました。フルーツトマト栽培で炭酸ガスを施用するには、水分ストレスや日中の換気など多くの課題はありますが、部長からは「環境制御技術のノウハウを確立して、収量を増やし、味を良くしたい」と前向きな発言がありました。

農業改良普及課では、部会の環境制御技術導入推進と技術確立に向けて支援します。

環境制御技術の導入が加速化！ ～南国市施設園芸環境制御技術研究会設立総会から～



設立までの経過を説明する
環境制御技術普及推進員

9月16日、環境制御技術導入加速化事業を申請した生産者で構成する「南国市施設園芸環境制御技術研究会」が、J A南国市で設立総会を開催し、生産者・関係機関ら22名（うち生産者13名）が参加しました。農業改良普及課は南国市の3 J Aと連携して、事前に会員へ規約案を周知する等の準備に関わり、総会では運営を支援しました。議案の承認後、会長からは「機械に任せても増収はしない、この研究会で得たものを栽培管理に活かして欲しい」、「会員の情報を共有してデータを有効利用していきたい」と心強い挨拶がありました。

農業改良普及課は、会員の増収・品質向上を支援します。また、同研究会への支援を通して地域へ環境制御技術の普及を図ります。

ニラ調整作業機の導入に向けて



そぐり機の説明をする普及指導員

9月4日・17日、JA土佐香美土佐山田支所、香北支所で攻めの農業実践緊急対策事業の説明会を開催し、17名のニラ部会員が参加しました。ニラ栽培では調整作業員の確保が困難となっており、作業員の能力に合わせて収穫するため、回数が少なくなったり、作業が間に合わずに刈り捨てたりすることが大きな課題となっています。そこで、農業改良普及課とJAでは、収穫後の調整作業を省力化する調整作業機の導入を推進しています。参加者からは、「コスト的にはどうか」「調整作業機的能力を確認したい」などの意見が出されました。

生産者によっては機械への理解が十分ではないため、今後、事業導入に向けて支援してゆきます。

地域資源を活用した加工品開発の先進事例研修



取り組み内容について説明を聞くグループ員

9月3日、香美市農政部会は、「森の小さなお菓子屋さん（いの町）」の視察研修を実施しました。この研修は、農業改良普及課が企画及び実施を支援したもので、香美地区農漁村女性グループ研究会など21名が参加しました。参加者はロスを減らし、売り上げを向上させるためには、イベントや天候によって生産量を加減したり、常に新商品開発や宣伝が必要であることなどを聞き、「商品化には時間がかかるが、今後の商品開発や経営に活かしたい」と、意欲が高まったようでした。

農業改良普及課は、今後も地域産物を活用した新たな加工品開発など、6次産業化を支援します。

ニラの品質向上にむけて



出荷されたニラを確認する参加者

9月8日、JA長岡でニラ部会の目慣らし会が開催され、ニラ農家やJA職員、園芸連が参加しました。関係機関からは、調整作業場の環境や雨天時の栽培管理等について注意を促すとともに、出荷されたニラを確認しながら出荷規格を再確認しました。

農業改良普及課からは、品質低下が見られた日の傾向について報告するとともに、収穫後の品質低下の要因やその防止対策を伝え、収穫から出荷までの温度管理や作業を再確認するよう促しました。生産者は、品質の判断基準や梱包方法等について質問するとともに、今後もよりよいニラを出荷できるように認識を新たにしていました。

農業改良普及課は、今後もニラの腐敗や異物混入等、品質向上対策の推進にむけて支援していきます。

秋播き野菜の栽培講習会



熱心に講習会を受ける参加者

8月20日、良心市利用組合、協同組合「菰生の里」を対象に、秋播き野菜の栽培講習会を開催し、生産者60名が参加しました。

栄養教諭からは学校給食における地場産品の活用状況、事務局からは出荷時の注意事項、JAからは連作障害、種苗会社からはキャベツ、ハクサイ、タマネギの品種や栽培方法について紹介してもらいました。農業改良普及課からはバンカープランツなど、農薬をあまり使用しない栽培法について紹介しました。参加者からは、「タマネギの播種時期はいつが適しているのか。」「夏場のセルトレイの色は何色が良いのか。」など質問が多く出されました。

農業改良普及課では、今後も学校給食での地産地消率の拡大や直販所を活性化に向けて支援していきます。

青年農業士中央東ブロック研修会を開催しました



研修会の様子

8月31日、青年農業士中央東ブロック協議会と南国市認定農業者連絡協議会との合同研修会を南国市役所会議室にて開催し、29名の参加がありました。講師の税理士から「経営計画作成、記帳から決算まで」と題した講演と練習問題も交えて研修をしました。日頃の記帳だけに終わらせず、経営にどのように生かすのかなど具体的な事例を示しながらの研修は充実した内容になりました。

農業改良普及課では、今後も青年農業士の経営や組織活動を支援していきます。

JA土佐香美柚子生産部会総会と創設40周年記念式典



創設40周年記念式典で先人の思いを語る

8月21日、JA土佐香美柚子生産部会総会が開催され、96名の部会員が参加しました。農業改良普及課では大規模経営体を育成するため、ほ場整備や防除作業の省力化について提案し、産地協議会や委員会を導いてきました。その内容が事業報告に盛り込まれ、部員から承認されました。

創設40周年記念式典では、先人たちの思いとして10億円を達成するためにもスピードスプレーヤー（薬剤噴霧機）が運行できる園地を整備することが重要であると提案されました。司会者から「部会として取り組んできたことが間違っていなかった」と、部会員への意識付けができました。